

**【紀要委員会企画】**

〔報告〕

**聖隷クリストファー大学において初年次春 Semester に開講される  
聖隷看護基盤実習の創設**

炭谷 正太郎 入江 拓 宮谷 恵 岡田 眞江 小出 扶美子  
清水 隆裕 乾 友紀 木村 暢男 天野 薫 室加 千佳 加藤 貴子

聖隷クリストファー大学 看護学部

**Nursing Practicum Based on the Philosophy of Seirei Held at Seirei-related  
Welfare Facilities in the Spring Semester of the First Year  
at Seirei Christopher University**

Shotaro Sumitani, Taku Irie, Megumi Miyatani, Masae Okada, Fumiko Koide,  
Takahiro Shimizu, Yuki Inui, Nobuo Kimura, Kaoru Amano  
Chika Muroka, Takako Kato

School of Nursing, Seirei Christopher University

**《抄録》**

聖隷看護基盤実習は、入学直後の1年次生春 Semester に聖隷ゆかりの福祉施設などに赴き、看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、建学の精神や聖隷の理念を礎に、学生自身の体験を振り返りながら学ぶ実習である。聖隷ゆかりの施設における臨地実習では、創設期からの歴史的な変遷や活動を知り、キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考え、施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけていく。

本報告では、聖隷クリストファー大学看護基礎教育における2022年度の聖隷看護基盤実習の創設について、①聖隷看護基盤実習の構築（看護学部学位授与方針、カリキュラムポリシー）、②単位、Semester履修者数、③科目概要、④実習目標、⑤実習展開、⑥学内委員会・授業との連携、⑦実習記録の構成をふまえて報告する。

**《キーワード》**

自校教育、看護基礎教育、建学の精神、理念の継承

---

2022年12月27日受付・2023年2月15日受理

## I. はじめに

聖隷看護基盤実習は、入学直後の1年次生が、聖隷ゆかりの福祉施設などに赴き、看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、建学の精神や聖隷の理念を礎に、学生自身の体験を振り返りながら学ぶ実習である。聖隷ゆかりの施設とは、聖隷福祉事業団の施設だけでなく特別養護老人ホームである十字の園、障害児入所施設・障害者支援施設である小羊学園など、キリスト教精神に基づく人々のための事業を実践し、聖隷の理念や聖隷の歴史に関連のある施設である。聖隷看護基盤実習は聖隷ゆかりの施設における創設期からの歴史的な変遷や活動を知り、キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考え、施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけていくことをねらいとしている。

聖隷看護基盤実習を創設するに至った経緯は、2022年4月より一部改正された保健師助産師看護師学校養成所指定規則（厚生労働省, 2019）に伴う聖隷クリストファー大学（以下、本学）看護学部のカリキュラム改正により、各看護師養成校独自に設定することが可能な6単位の实習について、本学看護学部では聖隷看護基盤実習1単位を1年次に、聖隷看護探求実習1単位を4年次に位置付けた（樫原, 2022）。本科目の目的・目標を支える、本学の建学の精神および、聖隷の看護教育の歴史に関わる考察については本稿と同じ看護学部紀要31号掲載の「看護学部における建学の精神に基づく教育文化の醸成に関する考察 - 聖隷の歴史及び看護教育を担った先達の証言と託された理念から -」を参照されたい（入江ら, 2023）。

1年次春 Semester に開講する聖隷看護基盤実習では、聖隷の創設の理念を現在も受け継ぎ、地域で暮らす人々の生活を支えている

施設での実習を位置づけた。本科目は聖隷の理念や歴史をとおして看護専門職としてのあり方や、自身の生き方について考え学ぶ自校教育である「聖隷の理念と歴史」と連動して展開される。また、4年次に開講する聖隷看護探求実習では、聖隷看護基盤実習と同様の福祉・高齢者施設において実習することで、3年次までの学修、実習経験などをふまえて建学の精神や聖隷の理念と関連させて意味づけ、今後の看護のあり方や自身の看護実践について探求し、発展させていくことを目指す。

聖隷看護基盤実習は2022年度から始まる新規の科目であり、実習施設は13の聖隷ゆかりの福祉・高齢者施設に決定された（表1）。聖隷看護基盤実習は、2021年度に開催されたカリキュラム改革委員会会議15回のうち7回にわたり報告・審議され実習計画が進展していった。

本学の自校教育は、大学開学時（1992年）に必修科目として「聖隷福祉事業の理念と歴史」が始まり、福祉事業に関して当事者として語る事ができる講師の高齢化による減少および、将来を見据えて、卒業生を含めた講師の入れ替えの必要性から「聖隷の理念と歴史（2013）」と科目名を変更し現在に至る。聖隷のゆかりの施設の代表者、教会の牧師、本学の学長・学部長などが講師を担い、施設発祥の経緯や自身の経験などをふまえて本学の理念や建学の精神について説いている。

従来の講義だけでなく聖隷ゆかりの施設への「実習」を創設する機運が盛り上がった背景には、本学の独自性を打ち出すための戦略的な側面と、本学の根底にある理念・哲学を風化させてはならないという危機感に依るところがあり、対人援助職の基盤というものは何かという問いに、学生も教員も立ち返る好機を得た。

表 1 実習施設・日程および教員・学生配置

実習 施設	実習 エリア	施設名称	施設区分	担当 教員	4月19日	4月26日	5月10日	5月17日	5月24日	5月31日	6月7日	6月14日	6月21日	6月28日	7月5日	7月12日	7月19日	7月26日					
					学内実習1日目～3日目				事前	実習 1日目	実習 2日目	事前	実習 1日目	実習 2日目	事前	実習 1日目	実習 2日目	事前	実習 1日目	実習 2日目	実習の まとめ		
1	1	聖隷厚生園講義棟	救護施設	2名	実習 オリエンテーション (学内)	(交流セッション・ワークショップ・フィールドワーク)	(交流セッション・施設の概観)	(交流セッション・サイトの作成方法)	(学内実習)	4	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	実習 成果 報告 会 (学内)			
2		聖隷厚生園信生寮	障害者支援施設	3名					6	6	(学内実習)	6	(学内実習)	6	(学内実習)	6	(学内実習)	6	(学内実習)		6	(学内実習)	6
3		聖隷おそぞら療育センター	医療型障害児入所施設						4	4	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4		(学内実習)	4	(学内実習)
4		聖隷三方原病院 ホスビス	ホスビス	2名					2	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)		2	(学内実習)	2
5		聖隷三方原病院 精神科デイケア	通所リハビリテーション						13	13	(学内実習)	13	(学内実習)	13	(学内実習)	13	(学内実習)	13	(学内実習)		13	(学内実習)	13
6		和合愛光園	特別介護老人ホーム	2名					3	3	(学内実習)	3	(学内実習)	3	(学内実習)	3	(学内実習)	3	(学内実習)		3	(学内実習)	3
7		みるとす	障害者支援施設						4	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)		4	(学内実習)	4
8		浜松十字の園	特別介護老人ホーム	2名					2	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)		2	(学内実習)	2
9		細江デイサービスセンター	通所介護						2	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)		2	(学内実習)	2
10		みをつくしサテライトのんき	通所介護	2名					2	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)	2	(学内実習)		2	(学内実習)	2
11		小羊学園三方原スクエア	障害児入所施設・障害者支援施設						4	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)		4	(学内実習)	4
12		浜名湖エデンの園	介護付有料老人ホーム	2名					4	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)		4	(学内実習)	4
13		三方原ベテルホーム	老人保健施設						4	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)	4	(学内実習)		4	(学内実習)	4
					54	160				53	53				160								

## Ⅱ. 目的

本学看護学部における聖隷看護基盤実習の位置づけ・科目概要・実習目標・実習展開・実習要項等から、当該科目創設を概観する。

## Ⅲ. 倫理的配慮

本報告に施設の名称を用いることについて施設長もしくは実習担当者に説明し、同意を得た。なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

## Ⅳ. 聖隷看護基盤実習の構築

### 1. 聖隷看護基盤実習の位置づけ

#### 1) 看護学部学位授与方針

看護学部は、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、人々がその人らしく生活できることを目指した質の高いケアを提供する看護の専門職を育成することを教育目的としている。

卒業においては、教育目的に則した教育課程に学び、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与する。

#### 2) 聖隷看護基盤実習の位置づけ

以下のように、本科目は本学のカリキュラムポリシー 1 に位置づけられる。

キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、多様な文化や価値観・生活背景を理解する人間教育に関わる大学教育導入科目と教養基礎科目として配置する。

#### 3) 授業科目の関連

本科目は、聖隷の理念や歴史をとおして、看護専門職としてのあり方や自身の生き方について考え学ぶ「聖隷の理念と歴史」と連動して展開される。学内実習にて、聖隷の理念と歴史の講話など振り返り、学生は自身が抱く「人間観」についてあらためて考えたり、自分自身に向けた問題意識や疑問などの「問い」を立てたりすることを試みる。そして、看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、その後の学修において深めてゆくための動機づけとする。

また、4年次に開講する聖隷看護探求実習は、本科目と同様の聖隷ゆかりの施設において実習し、看護職としてのあり方を地域貢献や保険・医療・福祉に関わる制度を含めて、建学の精神や聖隷の理念と関連させて意味づけ、今後の看護のあり方や自身の看護実践について探求し、発展させてゆくことを目指す。

### 2. 単位、セメスター、履修者数

1単位(45時間) 必修科目・第1セメスター、2022年度履修者数160名。

### 3. 科目概要

聖隷看護基盤実習は福祉施設を中心とした聖隷ゆかりの施設による実習であり、「ともに生きる」ことや「対人援助の営みを根底で支えているもの」について、そこに生きる人や支援する人と出会う体験を振り返ることにより、その体験の意味について建学の精神や聖隷の理念をふまえて言語化することで今後の学びの動機づけとする。本科目は、聖隷の理念や歴史をとおして、看護専門職としてのあり方や自身の生き方について考え学ぶ「聖隷の理念と歴史」と連動して展開される。そして、看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、発展させていくための動機づけと

する。本科目は、看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるための、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目である。

#### 4. 実習目標

- (1) 聖隷ゆかりの施設における創設期からの歴史的な変遷や活動を知ることができる。
- (2) キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考え、意見を交わすことができる。
- (3) 聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、自分の言葉で説明ができる。

#### 5. 実習展開

聖隷看護基盤実習は実習オリエンテーション、学内実習、臨地実習、実習のまとめで構成した。臨地実習は3日間（1日目：学内で実習準備および実習施設へ挨拶、2～3日目：臨地実習）で展開した（表2）。

手指衛生や個人防護用具など標準予防策に関しては、4月に学内実習を実施する間に必修科目である基礎看護技術Ⅰにて学修し、5月以降の臨地実習に備えた（表1）。

実習オリエンテーションでは、髪型や爪切りなど臨地実習に求められる身だしなみについて説明したが、服装はナースウェアではなく、福祉施設のスタッフが着用していることが多いジャージやトレーナーを着用するように定めた。

学内実習では、学生と担当教員の交流の場として「交流セッション」を設けた。実習エリア毎に教員の自己紹介、学生の自己紹介、各担当教員から聖隷の建学の精神や理念についての講話として学生のリアクションペーパー（聖隷の理念と歴史・聖隷看護基盤実習の授業の感想や意見を記載する学生対象のア

ンケート）を読んだ感想や考え、建学の精神や理念に関する体験談や考えが語られた。

本科目の臨地実習では、施設で生活をする方と共に時間を過ごすため、レクリエーションと一緒に参加したり、施設スタッフの支援する場に行ったりするなど、施設や利用者の状況に応じて方法が検討された。

本実習では、臨地で得た体験や気づきの共有にワールド・カフェ方式をアレンジして採用した。ワールド・カフェとは、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法の一つである（ワールド・カフェ・ネット、2015）。各グループから「旅人」を決め、他のグループに移って「他花受粉」と呼ばれる情報共有や繋がりを探求する。旅人から新しいグループメンバーへ、新しいグループメンバーから旅人へ、互いに元のグループで話し合われた内容を伝えディスカッションする。本来、グループメンバーの1人を残して他のメンバーが旅人となり1名ずつ別のグループへ移動するが、本実習では各グループ2名の「旅人」が共に他のグループに移動した。これは、入学直後の1年次生が自身の体験を語るにあたり、その背景となる実習施設の概要や状況を伝えやすくするため、2名が共同で旅人を担い、説明を補完しあって進めていくための配慮である。

なお、新型コロナウイルス（Corona Virus Disease ; COVID-19）感染症拡大の状況から、5月第1週のゴールデンウィーク後の市中感染がさらに拡大することが予想され、一部の実習施設からは連休直後の臨地実習開始について感染管理上の懸念の声があがった。当初の予定を変更し、学内実習は5月第3週まで継続され、第4週から臨地実習を開始した。また、各クールの臨地実習は3日間から2日間へ変更された。最終の実習成果報告会は豪雨のために延期され、登校が適わない学生は

表 2. 実習展開・到達目標

実習展開	方法	到達目標
実習オリエンテーション	実習オリエンテーション	実習の目的、目標、方法が理解できる。
	ワークショップ	本実習と並行して履修している「聖隷の理念と歴史」の講義を基に、ワークショップにより聖隷の理念や建学の精神に関する「問い」を立てる準備ができる。
	自己学修	学内実習に必要な準備を整えることができる。
学内実習 1日目～3日目	交流セッション 実習施設の調べ学修 ワールドカフェ予行 調べ学習の共有 問いを立てる	聖隷の理念と歴史の講話を振り返り、他の学生・教員と共有することができる。 実習施設の病院、聖隷の理念と歴史の内容などを基に、実習施設の理念、施設の概要・特徴・構造など調べることができる。 臨地実習日の体験報告会で用いられるワールドカフェの実施方法を理解し、予行できる。 調べ学習でまとめた内容を他の施設へプレゼンテーションし、共有できる。 実習記録の注意事項や設問を基に、問いを立てることができる。
	自己学修	臨地実習(1日目)に必要な準備を整えることができる。
臨地実習:1日目 事前実習	学内にて実習準備	実習施設ごとに担当教員から医療施設の理念や特徴など概要について説明を受け理解する。実習施設へ赴き挨拶する準備をする。
	実習施設へ挨拶	実習グループで実習施設へ赴き、施設担当者へ挨拶することができる。
	自己学修	臨地実習(2、3日目)に必要な準備を整えることができる。
臨地実習:2、3日目	実習施設にて、代表者の講話、見学、施設利用者の傍らに在ることを経験する。	実習施設の代表者より、施設の理念やそれに関連した様々なエピソードや施設の概要について講話を聞き、理解する。 支援者などに聖隷の理念や建学の精神に関する「問い」を投げかけ、回答を聴くことができる。 施設で生活する方、利用されている方と共に時間をすごし、その思いや物語の一端を知ることができる。 施設の方との関わりや観察から、対人援助職としてのあり方を考えることができる。
	自己学修	実習施設での体験を振り返ることができる。
実習のまとめ	実習成果報告会の準備	実習施設での代表者の講話や聖隷の理念と歴史の授業をふまえ、キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考えることができる。 学生が聖隷ゆかりの施設に赴き感じたこと、思いを表現することができる。 実習グループ毎に今回の実習で得た学びをまとめることができる。 対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ言語化できる。
	実習成果報告会	実習で得た気づきや学びを発表・共有し、他の学生の報告などから自分の意見を述べるすることができる。グループ間でディスカッションすることで考えを深めることができる。 他の施設の発表を聞き、質疑応答をとおしてその体験や学びを共有する。

Zoom (Zoom Video Communications, Inc.) を用いた遠隔授業に参加した。

## 6. 教員配置

表 1にあるように 13 施設を 5つのエリアに分け、それぞれに 2～3名の担当教員(看

護専門領域)が配置された。また、この担当教員は領域別実習を兼任しており引率できない時間帯があったため、安全確保のため4名の教員が緊急時対応として学内に配置された。

## 7. 学内委員会・授業との連携

本実習の学内における連携として、カリキュラム改革委員会と連携し実習目標や実習構成を検討した。各学部、専門学校の教務・実習委員会とともに他の実習における施設使用状況を取りまとめ本科目の実習施設・ユニット等の選定を行った。遠隔授業のテクニカルサポートのためシミュレーション教育委員会との連携のもと学内実習の準備を整えた。また、前述の聖隷の理念と歴史の他、キリスト教概論および毎週開催される礼拝による学びや気づきを臨地実習における支援者への問いの構築に活かすためのグループワークを行うなど連携した。

## V. 実習記録の構成

「実習施設の方へのご挨拶」は、初めての臨地実習に備え、施設利用者や支援者との良好な関係を築く出会いとなるよう学内実習にて挨拶の文言を検討し、実習記録に記載する。学内実習では、記載した挨拶文を基に、施設の支援者への挨拶の練習を行う。

「今日の目標（1日目・2日目）」は、臨地実習1日目および2日目における学生の目標について、実習目標を基に学生の関心や実習施設の特徴などからより具体的に定め、担当教員および実習施設の支援者と共有するため記載する。

「キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念に関連した「問い」をたてる」こと、および支援者から「回答」を聞くことは、建学の精神や聖隷の理念について考え対人援助職としてのあり方を培う上で重要な要素の1つである。学内実習にて、聖隷の理念と歴史の講義や礼拝の奨励を参考に、学生自身の体験などを踏まえて、学生自身に向けた問題意識や疑問など「問い」を立てて、記載する。そして、「問い」を臨地実習にて支援者に投げかけた結果（回答）も記録に残す。

「実習した聖隷ゆかりの施設について」は、学内実習における調べ学修や実習施設の代表者による施設の理念や概要に関する講話を基に、施設の理念・特徴・歴史・活動などの理解を深めるため記載する。

「建学の精神について」は、事前実習から実習成果報告会に至る全ての過程で追記・修正し、深めてゆくため記載する。調べ学習、聖隷の理念と歴史の講義、礼拝の奨励、実習での体験などを通して、考えたこと、感じたことをふまえて記載する。

「対人援助職を営む上で大切なこと」は、主に臨地実習にて、聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を考えるため記載する。

「私のものがたり」は、学生自身の考えの起源となる体験について内省を促すため、学生がこれまで生きてきた経緯や思いについて記載する。学生の家庭内の事情や過去の辛い経験など、学生の個人情報を含むため、記載は任意とし、教員や支援者が読んでも差し支えない範囲で記載する。

「出会った人のものがたり」は、主に臨地実習にて出会った利用者、支援者のこれまで生きてきた経緯に感心を寄せ傾聴することを促すため設けられた。出会った人のものがたりの一端や思いなどのありようから、感じたり教えられたりしたことについて記載する。

以上の内容を実習記録として記載するための留意事項（表3の末尾）としては、学生自身の私的な体験や思いを含むため、教員・施設の支援者・他の学生に開示できる範囲で記載するように伝えた。

また、学生には、記載の量の適切さや誤字脱字は評価の対象となるが、記載された内容については成績評定に影響しないことを説明した。

表 3. 実習記録の構成

内容	記載の目的・留意点
実習施設の方へのご挨拶	事前実習にて施設の玄関などで学生の代表者が挨拶をおこなう。また、実習の冒頭でお世話になる支援者へ、一人一人が挨拶をする。挨拶文を考え、記載する。 自己紹介として所属、学年、学生数、実習の目的を伝える。
臨地実習 今日の目標 (1日目・2日目)	
キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念に関連した「問い」をたてる	聖隷の理念と歴史の講義 (講師の話) や礼拝の奨励を参考に考える。自身の体験や講義・奨励の内容と自分 (私) の体験や素直な思い・気持ちを踏まえて、先ずは自分自身に向けた問題意識や疑問など「問い」を立てる。そして、実習施設で出会う支援者に問いかけてみたいこと、なげかけてみたいことを記載する。 箇条書きで記載する。聖隷の理念と歴史の受講しながら、追加する。 「問い」と支援者からの「回答」を記載する。
実習した聖隷ゆかりの施設について	どのような施設なのか、理念・特徴・歴史・活動など調べたり、聖隷の理念と歴史の受講や実習をとおして学んだりしたことを基に記載するしましょう。
建学の精神について	調べ学習、聖隷の理念と歴史の講義、礼拝の奨励、実習での体験などを通して、キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考えたこと、感じたことを記載する。
対人援助職を営む上で大切なこと	聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を考えて記載する。 聖隷の理念と関連させて考え、記載する。
私のものがたり	自分 (私) がこれまで生きてきた経緯や思いについて、言葉にする。対人援助職を目指したきっかけや迷い、他者に支えられたこと、実習での気づきなどをふまえて、記載してもよい。悲しかったことや辛かったことは差し支えない範囲で記載する。
出会った人のものがたり	実習で出会った利用者、支援者のこれまで生きてきた経緯の一端や思いなどのありようから、感じたり教えられたりしたことについて、記載する。その人が生きるうえで大事な事や大切にしていることを記載してもよい。
実習記録 記載の留意事項	本実習の記録には、自分自身の体験や思いなど内省した内容を含む。自分自身の正直なありようを表現することを心がける。 ただし、体験・思い・内省したことを教員・施設の支援者・他の学生に開示できる範囲で記載すればよい。 ※内省：自分自身の心と向き合い、自分の考えや言動について省みること。 各設問には、求められる記載の量の目安として枠が設けられている。また、誤字脱字がなく、読み手が読みやすいような記載は求められるが、記載された内容については評価しない。 「正解」はないため、設問にそって、体験したこと、感じたこと、気づいたこと、学んだことなど、言葉にする。 実習記録、メモ帳には、個人が特定される記載をしないことなど、「看護学実習の手引き」にある情報の保護義務に関するルールを遵守する。

## Ⅸ. 終わりに

建学の精神とは、普段は目に見えない地の底に這い、生命に欠かせない水や養分を吸い、幹を支える「根」に例えられる。「聖隷看護」の目に見えぬ「基盤」について、聖隷ゆかりの施設で、本学に入学したばかりの専門職としての教育を本格的に受ける前の学生が講話を聞き、利用者とともに在る、という体験をする。そして、その体験を通して、感じたこと、気づいたことを言葉にすることを試み自分へ問いかけるための営みがこの実習にはある。その営みの大事な中核には、学生自身が紡ぐ「問い」があり、支援者や利用者とのやり取りを通して問いへの回答を得ていく。「問

い」を紡ぐためのきっかけが「聖隷の理念と歴史」であり、この授業と実習が毎週交錯する中で、様々な心の動きが学生自身に生まれる。

本学の前身である聖隷学園浜松衛生短期大学の学則第1条の前文には、教育理念として「人の生命は傷つき、病み、死ぬべき弱い存在である。自分と他人とが共有しているこの弱さの自覚と共感と互助こそ、人間理解と愛と感動の基本であって、それが看護の源泉である」とある。本学の建学の精神として、学則の冒頭、第1章第1条は「本学は、キリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶すると共に、広い知識と深い専門の学芸を教授・研究し、保健医療福祉分野の



看護、リハビリテーション及び福祉の専門職業人を育成して、人類の健康と福祉に寄与することを目的とする。」という、目的的な表現となったが、本学にはこの前身の教育理念が連綿と受け継がれている。しかし、昨今では本学の看護教育における源泉ともいえる「弱さの自覚」を聖隷看護の基盤として享受する機会は乏しい。現在の看護学教育の中では、自分自身は何者で、何を感じ、何を想う者なのかという内向的な問いよりも、自分が何をするのか、すべきなのかという外向的な行動のほうが評価されやすい傾向にある(清水, 2022)。実習施設の成り立ちを予習し、自ら紡いだ「問い」を携えて、臨地に向かう学生は自ずと謙虚な姿勢になり、利用者や支援者に温かく迎えられ(またそうとはいかない場面にも出会いながら)、相手に気持ちを寄せていくよう試みる。その誠実で懸命な姿から、どの施設の関係者に尋ねてみても学生の評判はよく、好感を得ている。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、実習するユニットを変更するなどの実習施設管理者による迅速な対応もあり、全ての履修生が臨地実習を適えることができた。コロナ禍でありながら高齢者施設を含む臨地での実習が中断されなかったことは、実習施設スタッフの尽力に依るが、施設スタッフが実習の意義を理解し、期待が寄せられたことの現われでもある。この実習を履修した学生もその恩恵を感じ、利用者や施設の支援者に感謝する姿があった。

実習のねらいは様々あるが、総じて、本実習によって、利用者との出会い、支援者との出会い、教員との出会い、同級生との出会いが、看護を学ぶ上で必要な人間観を養うための人対人のより良い出会いであってほしいと願う。聖隷看護基盤実習が、個々の学生にとってこれからの本学での看護の学びのまさに基盤となり、4年間で発展していくことを期待したい。

## 引用・参考文献

- 入江拓, 清水隆裕, 松本有希 (2023): 看護学部における建学の精神に基づく教育文化の醸成に関する考察 - 聖隷の歴史及び看護教育を担った先達の証言と託された理念から -, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 31, 35-46.
- 樫原理恵, 本田彰子, 大石ふみ子他 (2022): 2022年指定規則一部改正に伴うカリキュラム改革について, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 30, 9-16.
- 厚生労働省 (2019): 保健師助産師看護師法施行規則の一部を改正する省令, 厚生労働省令第179号.  
<https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/tuuti915-2.pdf>, (検索日:2022年11月30日).
- 清水隆裕, 入江拓 (2022): 看護学生が看護の源泉たる弱さの意味を自覚するプロセスと教育的環境の考察 - 聖隷短大の看護教育理念から - 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 30, 61-70.
- ワールド・カフェ・ネット (2015): ワールド・カフェの準備から開催までの流れ, <https://world-cafe.net/>, (検索日:2022年3月1日).